

TruPhase の活用(5)
—音源の位相確認(5)—

1. はじめに

TruPhase の位相反転機能を利用して音源の位相確認を行っていますが、前報(4)に引き続き CD の位相確認を行います。

2. TruPhase の位相反転機能による音源の位相確認計画

前報(1)では、下記経路による CD 音源の位相確認を行いました。

CD ドライブ→fidata HFAS1-S10→Brooklyn DAC+→TruPhase
→300B シングルアンプ

前報(3)では、次の経路で CD 音源の位相確認を行いました。

SA11-S2(GPS-777 よりクロック入力)→CCV-5(GPS-777 よりクロック入力)
→Brooklyn DAC+(LINE 入力)→TruPhase→300B シングルアンプ

前報(4)では、次の経路で CD 音源の位相確認を行います。

47 研 4716→ CCV-5(GPS-777 よりクロック入力)
→Brooklyn DAC+(LINE 入力)→TruPhase→300B シングルアンプ

どの経路でも、TruPhase での位相反転は、音源の位相チェック実験シリーズにおける Brooklyn DAC+による位相反転と同じ結果になりました。

そこで、以降は、前報(1)と同じ経路で CD の位相確認を行いつつ、バッハの作品の CD を聴いていきます。

試聴した CD 音源は、音源の位相チェック実験(29)で使用したバッハのヴァイオリンの作品で下記のとおりです。

DECCA UCCD-1467 結果：正相

J.S.Bach 無伴奏ヴァイオリンソナタ 1 番・2 番
無伴奏ヴァイオリンパルティータ 2 番
ヒラリー・ハーン

SONY Classical SICC 30087 結果：正相

J.S.Bach 無伴奏ヴァイオリンソナタ 3 番
無伴奏ヴァイオリンパルティータ 2 番・3 番
ヒラリー・ハーン

Anchor Records UZCL-1030 結果：正相

J.S.Bach 無伴奏ヴァイオリンソナタ 1 番
無伴奏ヴァイオリンパルティータ 2 番・3 番

エンリコ・オノフリ

さらに以上に加えて下記を試聴しました。

RCA 74321-63470-2 結果：逆相

J.S.Bach シャコンヌ

ヤッシャ・ハイフェッツ

3. TruPhase の位相反転機能による音源の位相確認結果

上記 CD について、Brooklyn DAC+での位相反転と TruPhase での位相反転の結果が同じになるかどうか焦点です。

音量調整を容易にするため、Brooklyn DAC+では位相反転させず、TruPhase で位相反転させた状態で TruPhase のヴォリュームを固定し、TruPhase での位相反転では、Brooklyn DAC+でのヴォリュームでの調整だけにしました。

そして、Brooklyn DAC+では位相反転させないで、TruPhase での位相反転有り無しで聴いていきます。

DECCA のヒラリー・ハーン盤は、位相反転させると、定位が曖昧になり、音が散漫になります。位相反転させないと定位がしっかりして、ヒラリー・ハーンの丁寧なボウイングの様が把握できます。

SONY のヒラリー・ハーン盤は、もともと音像が大きめですが、位相反転させると、さらに音像が大きくなり、定位が曖昧になります。位相反転させないと像が大きめながら中央に定位し、ヴィヨームの透明感のある音色が聴かれます。

オノフリ盤は、位相反転させると定位が曖昧になり、過度の広がり感が出てきます。位相反転させないと録音が新しいだけあって、オノフリのテクニックの冴えた華麗な演奏が聴きどころです。

ハイフェッツ盤は、位相反転させると定位がしっかりして、ところどころにハイフェッツらしい華麗なテクニックが見え隠れします。位相反転させないと音像が大きくなり過度の広がり感が出てきます。

4. まとめ

TruPhase での位相反転と Brooklyn DAC+での位相反転の結果は、音源の位相チェック実験(29)と同様の傾向で正相であることが分かりました。今回追加のハイフェッツ盤は逆相であることが分かりました。

以上